



## 地域づくり部会



お盆前の8月10日(土)に恒例の「落雁づくり体験会」が催されました。令和2年に砂糖文化を広めた「長崎街道シュガーロード」が塩田津街道を含み「日本遺産」認定されたのを機に、久間コミュニティでも落雁づくり体験会を企画してきました。今年も29名の参加で賑わいました。10人の先生に「木型に手早く落雁粉を詰めてしっかりと押さえ、さつと取り出さんば」と指導は受けるものの、皆さん、落とすと割れるかもの心配がなかなかポイントと木型から落とすことができませんでした。慎重に取り出していました。いろいろな木型があり、各自思い通りに色合いをつけて自分だけの落雁を作っていました。10分程天干しで完成です。自分で作った落雁をお供えすると少しご先祖様が喜んでくれる気がします。来年も開催されると思いますが、多数の参加お待ちしております。



## 賑わった落雁づくり体験会

## 認知症について学びました

### 健康福祉部会

## 健康講座開催



↑楽しく認知症を説明いただきました



↑多くの方に参加いただきました

9月3日(火)の午後、コミュニティにて健康講座が開催されました。今年には社会医療法人祐愛会 介護老人保健施設「ケアコート」を呼び出して「認知症を解消しよう」ということでお話をいただきました。残念ながら、事前に予定していたスタッフの方がそろわず、劇を交えてということはできませんでしたが、それでも39名参加の講座は笑い笑顔でいっぱいでした。認知症は「誰にでも起こる脳の病気」ということ、認知症の症状、予防から「認知症を予防する簡単な運動やトレーニングまで」1時間という短い時間でしたが、中身の濃い講座だったと思います。

「認知症の症状に最初には気づくのは本人」であり、認知症の人は何もわからないのではなく、誰よりも一番心配なのも、苦しいのも、悲しいのも「本人」です。という説明がありました。私も「本人」の方ですが、「認知症」と関わっていく可能性が高いのです。ならないための予防も大事ですが、適切な講座を聞いて、少しでも早めの対応と、適切なかかり方を知っておくことも大切だと感じました。

## 公民館活動部会

### 電波教室 (ラジオ工作)

8月31日 (土) コミュニティで「電波教室」を作ろうが開催されました。これまで久間小学校6年生を対象に開催されてきましたが今年は一一般の方や親子参加も呼びかけ10名の参加でした。電波適正利用推進員協議会の皆さんによる「電波って何だろう」という勉強から後半はFMラジオ作りです。全員のラジオが電波を拾い、雑音がないFM放送が聞けました。子供たちはみんな喜んで耳を傾けていました。



### 高齢者スマホ教室

8月20日(火)と23日(木)の両日、「高齢者スマホ教室」が開催されました。Wi-Fiに接続してグーグルレンズなどいろいろな検索の仕方、音声入力、フリック入力、LINEなど盛りだくさんです。今年の異常な暑さで、コミュニティ主催のイベントもなかなか参加状況が芳しくありませんでした。スマホ教室も申込者が5名前後でサポート1ターも含めて10名くらいでした。少数のためしつかりスマホ操作の勉強ができたようでした。



## 総務・広報部会

9月5日(木)は久間小2年生の生活科「生き物大さき」でした。サポーター7名ついでに校外学習です。学校から南志田の大浦(ううら)ため池まで歩き、アメリカザリガニ、横の畑でコロギ・バッタなどをつかまえます。学校に戻ってからアメリカザリガニは「条件付き特定外来種」といって飼うなら最後まで、他の池などに放流したらいけないなどちよつと厳しいことも学びました。

### 地域連携の教育活動



絶対釣るぞ〜



慣れたらこんなことも

9月3日(火)、4年生は「水生生物による水質調査」でした。近くの北目川親水公園まで行き、川に入って石ころなどにくっついていて水生生物を採集しました。サポーター6名は水の事故が起きないように見守ります。理科室に戻り、採った「水生生物」がどのような水質に生息するものかで仕分けしてシャーレに入れます。分類して、その数量などを点検化して表に書き込みます。サポーターも一緒にこれはなんていう虫だろうとレンズをのぞき込みます。各班のデータを基に北目川の水質を判断しましたが、「ややきれいな水」に分類できるだろうという結論でした。

## 青少年育成部会



石ころの下に付いてる生物を



真剣な分類作業

## 事務局長雑感

女子バスケットボールの高田真希選手は東京オリンピックの銀メダル獲得チームの主力メンバーだったが、高校時代に全国三冠を成し遂げた。そういうのをいい経験だと感じる時期もあった。でも今はそこにとどり着くまでの苦しい練習や、結果が出せなかったこと、それが記憶に残っているし、いい経験だと言っていた。「失敗を失敗と捉えるな。良い経験だと捉える」が持論という。目標に向かって頑張る、そして結果(勝つ、優勝する、合格するなど)を出すことは大事で、特に子供たちは自己肯定感などと結びつき、健やかな成長に大きく影響するようだ。でも、その挑戦の過程を評価することも大切だと高田選手は言葉を聞いたときに改めて思った。何か挑戦したとき、達成できなかった、頑張りが続いた、挑戦をやった、一継続できた、ことを自分の中に取り込み満足できたらそれまでいい経験。何を指導するにも必要なことだと、今更ながら思う。



暑い中頑張った2年生の皆さんとサポーター

### 青色防犯パトロール活動担当地区のお知らせ

9月 堤ノ上  
10月 のぞえ

午後3時15分～4時15分まで

よろしく  
お願いします

